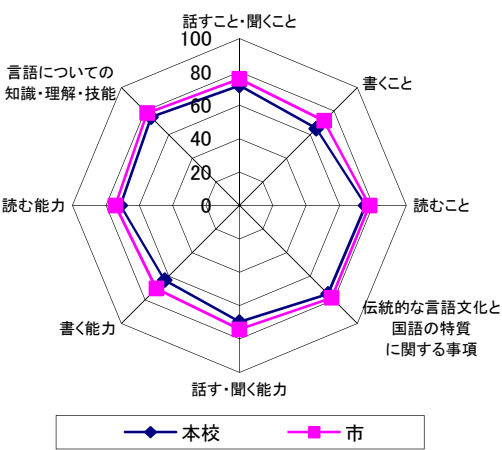


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	71.8	75.9	71.7
	書くこと	65.1	71.8	73.2
	読むこと	75.6	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	69.8	74.2	70.8
	書く能力	63.4	70.4	71.0
	読む能力	71.4	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	74.9	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

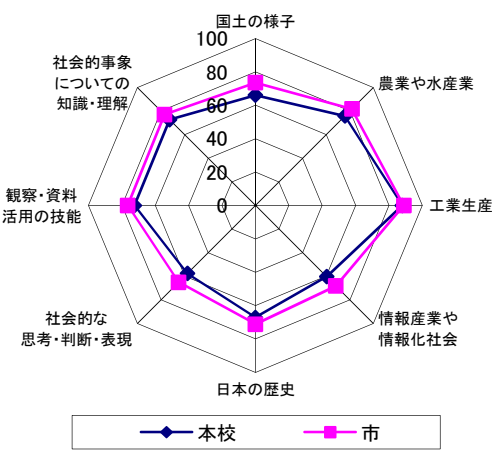
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○全体の平均値では市を4.1ポイント下回ったが、内容の聞き取り等の力は市と同等である。 ●司会の役割を理解し、計画的に話し合う能力を問う問題における正答率が低い。	・これまで行ってきた聞くことの指導を引き続き行っていく。加えて、話すことの指導として、「自分の意見を分かりやすく話すこと」だけでなく、見通しをもちながら「司会者として話し合いを牽引していく」方法も、体験を通して学習させていくようにする。
書くこと	●市の平均より6.7ポイント下回った。解答文の長さや段落構成などの、示された条件通りに自分の考えを書く書き方に慣れていないことが原因と考えられる。また、無答の児童が全体の10%強おり、平均が上がらない要因となっている。	・多くの児童は、問題の意図を捉え答えることができたが、点数に表れなかった。したがって、今後、決められた文字数、段落の数などの条件作文を書かせる指導を行う。さらに、出題者の意図を反映させた文の書き方を学ばせる。 ・無回答者に対する指導を引き続き行っていく。
読むこと	○全体の平均値では市を2.9ポイント下回っているに留まった。全体的に物語文の読み取りは市と同程度で、特に登場人物の心情を読み取ることを問う問題については、市を上回った。 ●説明文の内容を読み取る問題では、段落相互の関係を読み取る問題において、市を8.2ポイント下回った。	・これまでどおり、文を読むことや理解しながら読み進むことを、繰り返し支援していく。教科書に書き込ませたり、つぶやきを拾ったりして自分の考えをもつことを重視しながら、「読解する」授業を行うようにする。また、説明文においては段落のまとまりを意識しながら、筆者の意図を理解していくような指導を続けていく。 ・読書量を増やす指導をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○言葉の学習については、熟語の構成や敬語(謙譲語)についての内容などで市の平均値を上回る結果が得られた。 ●敬語(尊敬語)、漢字の読み書きについては、市の平均値を下回り、5年の漢字についての正答率が低かった。	・今後も朝の学習や漢字豆テストを継続的にを行い、力を付けさせていく。教科書に載っている熟語だけでなく、一般的な熟語にも範囲を広げ、漢字を応用する力を伸ばすようにする。 ・敬語の中でも尊敬語を正しく問う問題が低いことから、日常的に尊敬語を使う場面で、折に触れて指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	66.1	73.6	76.2
	農業や水産業	75.8	81.9	77.5
	工業生産	88.0	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	60.3	68.2	61.0
	日本の歴史	67.1	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.6	65.1	62.1
	観察・資料活用の技能	72.5	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	72.7	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

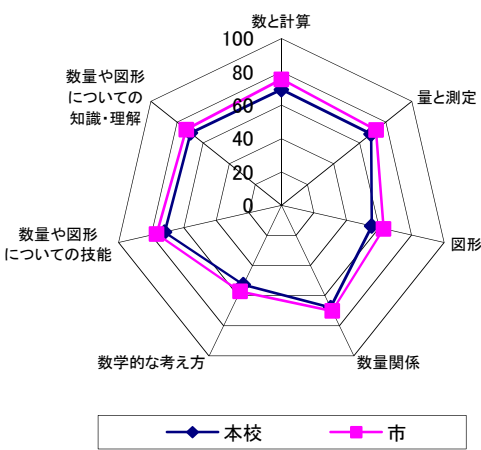
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●正答率が66.1%と、市の平均を7.5ポイント下回っている。特に、主な国の名称と位置、日本の地形の理解をもとに資料を読み取る問題が、市を5から7ポイント下回った。 ●公害や自然災害に関する問題が、市より10ポイント程度低かった。 ○日本周辺の海洋名を問う問題は、正答率が70%を超え、おおむね定着している。	・復習用のプリントや地図等を準備し、家庭学習等で活用し定着を図る。 ・「日本とつながりの深い国々」の単元において、日本と世界とのつながりを学習する際に、国土の位置や海洋名、近隣諸国について再度復習し、定着を図る。 ・既習の知識を活用して資料を読み取ることを指導するとともに、公害や自然災害に関する話題を日常的に採り上げ、興味・関心がもてるように指導する。
農業や水産業	●正答率が75.8%であったが、稲作に従事している人々による品種改良の目的に関する問題が、市の平均を20ポイント程度低かった。 ○稲作に従事している人々の安全確保や輸送・販売に関する資料の読み取り、および、外国から輸入している食料があることを示す資料の考察は、市の平均を上回った。	・復習用の教材を準備し、学習内容を再度確認できるようにする。さらに、家庭学習を中心に復習用の教材を活用し、定着を図る。 ・「日本とつながりの深い国々」や「世界の未来や日本の役割」の単元において、世界とのつながりを学習する際に、日本の農業や水産業の特徴を再度確認し、定着を図る。
工業生産	○正答率が88.0%であり、ほぼ市の平均並みである。特に、さまざまな工業製品が国民生活を支えていることを問う問題は、95.9%とよく理解できている。また、工業従事者の環境保全に関する問題では、資料を読み取り、表現する問題の正答率は、80.2%であった。	・復習用の教材を準備し、学習内容を再度確認できるようにする。さらに、家庭学習を中心に復習用の教材を活用し、定着を図る。
情報産業や情報化社会	●正答率が60.3%と正答率が低く、市の平均を7.9ポイント下回った。特に、放送・新聞などの産業の役割や責任の大きさを問う問題の正答率は、55.4%で市より11.8ポイント低かった。 ●情報ネットワークと国民生活の関りについて資料を読み取って考える問題は、市より3.8ポイント低かった。	・正しい判断のもとで情報を扱うことができるように、学習のみならず、日常生活においても指導していく。 ・復習用の教材を活用し、学習内容を再度確認する。さらに、各教科との関連を図るなどして、日常における情報産業や情報化社会についての理解を深め、定着を図っていく。
日本の歴史	●正答率が67.1%で、定着率が低かった。記述式の問題では、大日本帝国憲法とドイツの憲法を比較して共通点を読み取り、大日本帝国憲法の特徴を表現する問題の正答率が48.8%で半数を割った。 ○織田信長の働きに関する資料の読み取りでは、正答率が88.4%で市の平均に迫った。	・復習用の教材を活用し、歴史の流れや出来事について再度確認したり復習したりする。 ・社会科新聞づくりを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てていく。 ・家庭学習等において、自主的な調べ学習を奨励し、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.5	75.6	75.8
	量と測定	68.7	72.5	71.2
	図形	55.5	62.8	71.0
	数量関係	67.9	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	52.7	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	71.8	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	69.7	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

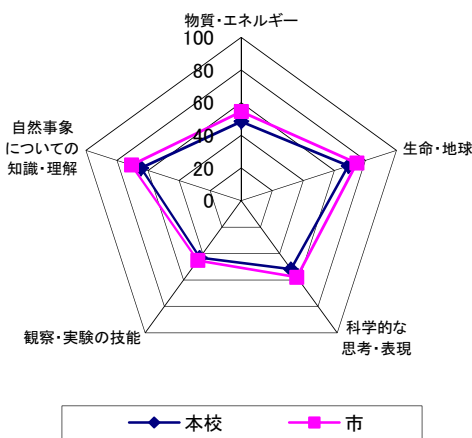
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●正答率が69. 5%で市より6. 1ポイント低かった。 ●図を使って、分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題は、正答率が37. 8%とかなり低かった。	・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それらも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。
量と測定	●正答率が68. 7%で、市より3. 8ポイント低かった。特に、速さと時間から道のりを求める問題(単位換算あり)の正答率が37. 5%と低かった。	・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材も準備してあるので、それらも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。
図形	●正答率が55. 5%で、市より7. 3ポイント低かった。 ○合同な三角形を作図する問題は、90. 0%とよくできていた。 ●円の直径から円周を求める式を選ぶ問題では、正答率が21. 7%と低かった。	・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それらも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。
数量関係	●正答率が67. 9%で、市より2. 2ポイント低かった。 ○比例の関係をxやyを使って表す問題や、帯グラフから割合を求める問題はよくできていた。 ●比の値を使って必要な材料の量を求める方法を説明する問題は、正答率が31. 7%で、無答率は15. 8%であった。	・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それらも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	48.5	54.6	57.5
	生命・地球	69.1	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	51.9	58.0	59.6
	観察・実験の技能	43.1	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	64.5	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●全体として、市の平均を6.1ポイント下回った。 ○電磁石の性質や炭が燃えているときの空気の流れを問う問題は、正答率が80%を超えており、よくできていた。 ●水溶液の性質の問題では、いろいろな実験から水溶液に溶けていた物質を判断したり、2種類の水溶液区別する方法を問う問題は、正答率が17.2%から27.9%と低かった。	・実験時には、問題意識を明確にもちながら、さらに、そろえる条件と変える条件を意識して実験・観察に取り組むように指導する。さらには、実験結果と考察を自分の言葉でまとめられるように、科学的思考力とともに考えを表現する言葉の力も育てていく。また、復習用教材を活用し、各自再確認をさせていく。
生命・地球	●全体として市を5.4ポイント下回った。 ○メダカの雌雄の区別、心臓の位置、クレーターの名称を問う問題は、正答率が80%を超えていた。 ●腎臓の名称や上弦の月が南中する時刻を求める問題は、市より10ポイント以上低く、50%に留まった。	・心臓だけでなく、主要な消化器官・循環器官の位置や働きを復習する。また、月の動きについて問題意識を持ち、どのような法則で動いているのかが理解できるように指導する。さらに、復習用教材を活用し、各自再確認をさせ、実験はなるべく少人数で体験させ、方法や結果について自分の言葉で確認していく授業を心がけるようにする。